

特別講演会 コルネリヤ・イチン教授（ベオグラード大学）を迎えて

## 「セルビア・アヴァンギャルドとヨーロッパ」

多言語雑誌『頂上（Zenit）』（1921-1926）の活動を中心に



### "Сербское авангардистское движение искусство в контексте Европы"

Вокруг создания журнала многоязычного «Зенит» (1921-1926)

コメンテーター 増本浩子（神戸大学）、ヴァレリー・グレチュコ（東京大学）

司会 楯岡求美（東京大学）

#### 講演内容

ベオグラードでリュボミール京大およびブランコ・ミツリチ（ペンネーム：ポランスキ）によって創刊された雑誌『頂上（Zenit）』（1921-1926）にはユーゴスラヴィア国内のみならず、ヨーロッパ各地で活動していたダダイストや未来派をはじめ、さまざまな前衛詩人・芸術家たちが参加した。作品は翻訳ではなく、個々の作家たちの創作言語（母語）で掲載され、ある種、20世紀のバビロンの塔のようだった。

ブランコ・ヴェ・ポランスキ、ミハイロ・ペトロフ、ヨシプ・サイスル、アウグスト・チェルニゴイ、エドゥアルド・ステパンチチなど、日本ではこれまでほとんど紹介されてこなかった旧ユーゴスラヴィアの詩人、アーティストたちの活動に触れながら、ヨーロッパの多言語・多文化性を考える。

#### 講師紹介 コルネリヤ・イチン教授 (Kornelija Ičin)

ベオグラード大学言語学部教授(2004年～)。

ニコライ・グミリョフの詩集『青い星』に関する博士論文(1993)、レフ・トルストイの戯曲に関する教授論文(1999)を執筆。主な研究テーマは、銀の時代からロシア・アヴァンギャルドを中心とする20世紀ロシア詩を専門とし、ハルムスなどの不条理文学のほか、演劇、絵画、映画など多岐にわたって論考を発表。数多くの国際シンポジウムを組織し、近年ではアヴァンギャルドを多角的に検討するシンポジウム・シリーズを企画・主催し、ヨーロッパ東西の研究者間の活発な交流の場を提供している。「Zbornik Matica srpske za Slavistics」の編集長、『Slavica Tergestina』の編集委員。

ザーウミ(超意味言語)・アカデミー「ロシア未来派の父ダヴィド・ブルリューク賞」授賞。

日時 2023年2月4日(土) 14:00～16:00

場所 (会場変更) 九州産業大学 15号館1階 15101教室 (正門から入構)

使用言語 ロシア語(日本語通訳付き) \*対面のみ、申し込み不要



企画：福間加容（九州産業大学美術館）

共催：九州産業大学美術館 / 科研(B)18H00655「ロシアとコーカサス諸地域の文化接触：受容と変容と離反のダイナミズム」 / 科研基盤研究(B)22H00650「モスクワ・ベルリンを結ぶ革新的芸術理念—セルゲイ・トレチャコフを中心に」

連絡先：slav.lecture@gmail.com（東京大学スラヴ研究室）